

## 再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：三浦 真紀

事業名：一般国道477号 四日市湯の山道路	事業区分：一般国道	事業主体：三重県
起終点：（起点）三重県四日市市高角町～（終点）菰野町大字音羽地内	延長：9.0	km
<b>事業概要</b> 四日市インターアクセス道路は、特定重要港湾四日市港と東名阪自動車道四日市ICおよび第二名神高速道路（仮称）菰野ICを連結しアクセス強化を図る地域高規格道路である。 四日市湯の山道路は、「四日市インターアクセス道路」の一部区間であり、現道の混雑緩和を目的とした延長9.0kmの4車線（暫定2車線）の道路である。		
H9年度事業化	H6年度都市計画決定（H年度変更）	H9年度用地着手
H9年度工事着手		
全体事業費	390億円	事業進捗率：67%
計画交通量	13,600台/日	供用済延長：0.2km
費用対効果分析結果	B/C（事業全体） 1.5	総費用（残事業/事業全体） 100/423億円 （事業費：97/420億円 維持管理費：3/3億円）
	（残事業） 6.3	総便益（残事業/事業全体） 627億円/627億円 （走行時間短縮便益：481/481億円 走行経費減少便益：101/101億円 交通事故減少便益：45/45億円）
事業の効果等 新名神高速道路などの高速交通を補完し、既に供用済みの四日市バイパスに接続することで、四日市市街地や東名阪自動車道と新名神高速道路菰野インターチェンジ間との連絡を強化することになります。		
関係する地方公共団体等の意見 新名神高速道路等の整備とともに、渋滞緩和、地域ネットワークの構築、物流の効率化などの面から、四日市湯の山道路の早期供用開始が強く望まれています。		
事業評価監視委員会の意見 事業継続を了承する。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 新名神高速道路について、平成30年度には県内全区間が完成予定であり、当事業の必要性に変化はありません。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成22年度末の事業進捗率は、67%（工事64%、用地70%）となっています。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 高角ICから四日市菰野大安線間の早期の部分供用を進めます。 全区間については新名神供用と同時に供用に向け事業を推進します。		
施設の構造や工法の変更等 新工法による大規模なコスト縮減は無いが、再生材の利用などを推進している。		
対応方針	事業継続	
対応方針決定の理由	再評価において、審査の結果、事業の妥当性が確認された。	
事業概要図		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。